

ぐるり30

～自治調査会だより～

2024

1

NO. 124

[発行日]
2024.1.1



武蔵国一之宮の名を冠する神社。境内のハート型のくぼみ模様がある御神石は恋愛のパワースポットとして知られています。

【写真提供】多摩市 【撮影場所】小野神社

Contents 1月の内容

- ▶ 多摩東京移管130周年
・「多摩東京移管130周年記念 多摩市町村のあゆみ」発行・・・2
・多摩市町村のあゆみ～さまざまな独立県構想～・・・3
- ▶ オール東京62市区町村共同事業
みどり東京・温暖化防止プロジェクト 市町村の取組紹介・・・4
稲城市 環境学習講座「セミの羽化の観察会」
羽村市 羽村リユース・リデュースプロジェクト2023
青ヶ島村 池之沢地区森林保全事業
- ▶ 多摩交流センターだより
・広域的市民ネットワーク活動支援 申請団体募集中！・・・5
- ▶ Spot News！・・・6
東京たま未来メッセを利用して多摩地域を盛り上げよう！
- ▶ わたげ探偵！！こんなの調べてみました！・・・7
～東京都市町村ポッチャ大会～
- ▶ 多摩・島しょ とっておき歴史発見 ～多摩市～・・・8



◀ 多摩東京移管130周年記念ロゴマーク
当調査会は多摩東京移管130周年記念事業を展開しています。

公益財団法人

東京市町村自治調査会

多摩東京移管130周年



「多摩東京移管130周年記念 多摩市町村のあゆみ」発行

移管後の多摩地域の歴史を知り、地域への関心を深めてもらうため「多摩東京移管130周年記念 多摩市町村のあゆみ」を発行しました。これは、120周年記念で発行した小冊子『多摩市町村のあゆみ』を130年版として再編したものです。

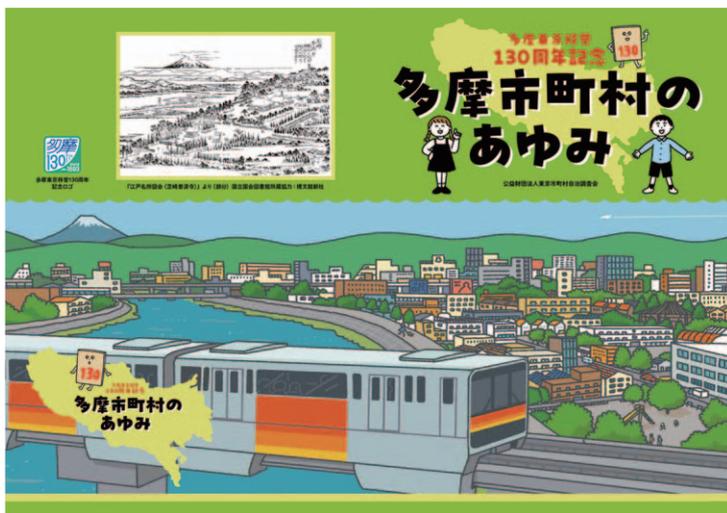
冊子は当調査会のホームページで公開していますので、ぜひご覧ください。また、関連動画も作成しましたので、こちらもあわせてお楽しみください。

なお、次ページでは、120周年記念で発行した小冊子『多摩市町村のあゆみ』からの抜粋記事を掲載していますので、あわせてご覧ください。

※冊子及び動画は「問合せ先」欄参照

▼裏表紙

▼表紙



多摩地域の自然環境と都市の街並みが共存する美しい風景をイメージして描かれているよ☆

「コンパクトで、誰もが手軽に読め、なるほどと納得できる読み物を提供する」というコンセプトで作っているから読みやすい♪



各章のはじめに、その章の内容をおおまかに把握できるマンガがあるから、子どもから大人まで多摩の歴史を楽しく学べる♪

このマンガ部分が動画になっているから、ぜひ見てみてね！
リンクは下の「問合せ先」欄にあるよ。



問合せ先

(公財) 東京市町村自治調査会 総務課

TEL 042-382-0068 FAX 042-384-6057

調査会ホームページ <https://www.tama-100.or.jp>

冊子 https://www.tama-100.or.jp/contents_detail.php?frmlD=1261

動画 https://www.tama-100.or.jp/contents_detail.php?frmlD=1262



▲ホームページ



▲冊子



▲動画

多摩市町村のあゆみ

本紙12月号では、都制の実現と多摩地域の関わりのほか、多摩地域の都制への編入を求める運動についても紹介しました。今回は、それとは反対の独立を求める動きについて見ていきましょう！

～さまざまな独立県構想～

① 八王子を県庁とした武蔵県構想

多摩地域は都制編入を求め、粘り強い運動を行いました。独立県を求める動きもありました。武蔵県構想もその一つで、多摩地域を神奈川県に編入しようという帝都制案が出された1923(大正12)年頃、盛んに語られました。武蔵県とは、多摩の3郡と東京市隣接5郡の8郡で一つの県をつくるもので、東京都との間で都県組合を作って補助を得ようというものです。市制を施行した八王子市に県庁を置いて、多摩地域全体の発展を図ろうという積極的な構想だったといえます。



② 立川を県庁とした多摩県構想

多摩地域だけで一つの県をつくる多摩県構想は、都県組合をつくって都から補助を得る点では武蔵県と同じですが、東京市隣接5郡は都制区域にすべきだとの強い意見から出された案です。この案に多摩地域は、多摩地域だけでは補助をもらっても県として自立できないと反対します。しかし、1925(大正14)年頃になると、1922(大正11)年の飛行場開設、翌年の町制施行と急速に発展していた立川に県庁を設置するという多摩県構想が北多摩で支持されるようになりました。八王子に対抗して、立川を中心に多摩地域の発展を図ろうとしたものと考えられます。



③ 神奈川県郡部との合併新県設置構想

1930(昭和5)年頃、横浜市でも横浜都構想が語られるようになり、神奈川県郡部の扱いが問題となっていました。そこで、有吉忠一横浜市長は、多摩地域と神奈川県郡部で新県をつくり、県庁を八王子に置くという案を示しました。この案を支持する声が、八王子市を中心とする南多摩郡の市町村長からあがります。1930(昭和5)年に八王子市では街路計画が決定し、市街地の区画整理に向けての動きも開始されていました。この本格的な都市計画の進展を背景に、八王子では再び県庁誘致による地域開発を考えだしたのです。ここには、多摩県を支持し、県庁誘致で地域発展を図ろうとした立川への対抗という意味もあったと考えられます。

④ 一貫して都制編入を主張した西多摩

東京都から独立した県をつくり、県庁誘致による地域発展を模索した南多摩、北多摩とは異なり、一貫して都制編入を要求したのが西多摩でした。県庁誘致の可能性が薄く、東京市の水道と直接利害関係を持っていたのが西多摩であったからだと考えられます。都制編入期成会の初代会長の秋本喜七は北多摩出身でしたが、2代目の瀬沼伊兵衛、3代目の岩浪光二郎は西多摩の出身でした。



▲編入期成会 第2代会長 瀬沼伊兵衛(左)
第3代会長 岩浪光二郎(右)
〔『東京と三多摩』より〕

(公財) 東京市町村自治調査会「多摩市町村のあゆみ」より

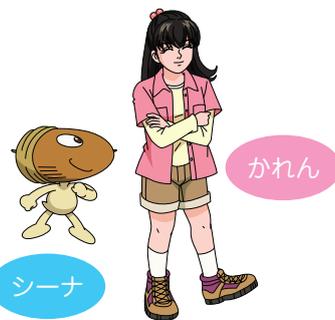


オール東京62市区町村共同事業

みどり東京・温暖化防止プロジェクト

市町村の取組紹介

本プロジェクトでは、自然環境保護と地球温暖化防止についての普及・啓発を目的とする市区町村の自主事業に対し、助成を行っています。この中から多摩・島しょ地域の市町村で本助成を活用して実施された取組を紹介します。



かれんとシーナは、みどり東京・温暖化防止プロジェクトのイメージキャラクターです。



① 稲城市 環境学習講座「セミの羽化の観察会」

稲城市では、自然に直接触れて地域に生息する生物への親しみを持ってもらうため、市内在住・在学の小学生以上の市民を対象に生物多様性推進講座を開催しています。今年度は「セミの羽化の観察会」として市民講師をお呼びし、セミの生態について学んだあと、隣接する公園内で実際にセミが羽化する様子を観察しました。日没と共に徐々に姿を現すセミの幼虫たちが木を登り、羽化をして羽を伸ばしていく姿に親子揃って満足したというお声をいただいています。

今後も継続的に講座を開催していく予定です。



【問合せ先】稲城市 緑と環境課 TEL 042-378-2111



② 羽村市 羽村リユース・リデュースプロジェクト2023

羽村市では、市内の団体、事業者、個人の方が行うイベントなどで利用可能なリユース食器の貸出しを行っています。使用後の食器は残飯を除いて返却するだけなので、利用者からは「ゴミも減らせて、エコで便利！」という声をいただいています。

近年は新型コロナウイルス感染症の拡大により貸出し件数が減少していましたが、各種イベントの再開に伴い、利用数が急増しています。今後もリユース食器の利用を促進し、廃棄物となる使い捨て容器を削減することで、低炭素な事業や生活を推進していきます。



【問合せ先】羽村市 環境保全課 TEL 042-555-1111

③ 青ヶ島村 池之沢地区森林保全事業



島のシンボルとなっている二重式火山は、アメリカのNGOによる「死ぬまでに見るべき世界の絶景13」に選出され、特に内輪山を望む景観は、観光スポットとなっています。

また、二重式火山の外輪山に囲われている池之沢地区は、地熱の影響で1年中暖かく、特産品である焼酎「青酎」の原料となるさつまいもの栽培や、切り葉などの地場産業が行われています。2019年度より開始した池之沢地区全体の森林整備は、地場産業の活性化、環境や観光スポットの保全を目的としており、今後も継続していきます。



【問合せ先】青ヶ島村 総務課 TEL 04996-9-0111



多摩交流センターだより

広域的市民ネットワーク活動支援 申請団体募集中!

当調査会では、多摩地域の市町村の枠を越えて行われる市民活動がより拡大し、充実したものとなるように助成事業を行っています。

当助成事業は市民活動を一つの市町村だけでなく、複数の市町村で行う活動として、新たに広域的な市民ネットワークをつくってみたい、もっと拡充したいとお考えの市民団体が対象となります。

制度の詳細は、多摩交流センターで配布している「2023年度広域的市民ネットワーク活動支援制度【活動支援】の手引き」(右下二次元コード)をご覧ください。

また、今年度から団体の構成要件を緩和し、申請しやすくなりました。本制度の利用にあたっては、事業実施の2か月前に当調査会にご相談いただく必要がございます。今年度中に事業実施を検討されている場合はお早めにご連絡ください。



【問合せ先】(公財) 東京市町村自治調査会 企画課
TEL 042-382-7781

詳細はこちら▶

Spot
News!

東京たま未来メッセを利用して 多摩地域を盛り上げよう！

多摩地域の持つ産業集積の強みを生かし、東京都における産業の振興を図るため、見本市や展示会に利用できる「東京たま未来メッセ」が約1年前に八王子市に誕生しました。今回は、東京たま未来メッセから寄稿いただきましたので紹介します。

東京たま未来メッセとは

東京たま未来メッセ(東京都立多摩産業交流センター)は2022(令和4)年10月14日に開業した東京都立の施設です。東京都の多摩地域の持つ産業集積の強みを生かし、広域的な産業交流の中核機能を担うことにより、東京都の産業振興、中小企業の支援を主な目的として設立されました。

4階・5階には八王子市保健所、6階・7階には東京都八王子合同庁舎があり、会議利用以外にも多くの周辺住民の方が訪れています。4分割まで可能な2,400㎡の展示室は、最大2,000名を収容可能です。天井高は10メートル、床耐荷重は4トン/㎡あり、大型の車両や工作機械などの展示も可能です。

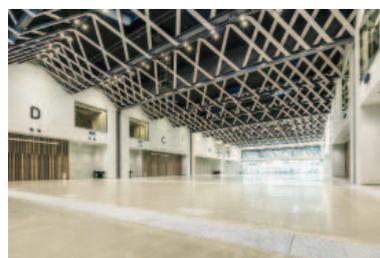
展示室の天井は多摩織をイメージした特徴的なデザインで、これは施設の敷地にかつて東京府立染織試験場があったこと、また多摩地域の伝統的な産業が織物工業であったことに由来しています。

25名~100名収容可能な大小7つの会議室は、5,000円から利用が可能で、小規模の展示会、企業の社内会議から、一般利用の文化サークルなど、様々な用途にご利用いただけます。

アクセスがJR八王子駅から徒歩5分、京王八王子駅から徒歩2分の好立地ということもあり、平日は企業の展示商談会、中小企業のマッチングイベント、土日祝日はファミリー向けイベントや、地域住民の方を対象としたマルシェ、eスポーツの大会やプロレスなどのスポーツイベントなど、当初の予想を超えて様々な催事が行われています。また、多摩地域には大学など多くの教育機関も存在し、様々な学術会議も行われ、2023(令和5)年秋には初めての国際会議(ISEM2023)も開催されました。



▲施設外観



▲多摩織をイメージした特徴的なデザインの展示室の天井

進化する東京たま未来メッセ

2023(令和5)年11月4日から、すぐ前の旧保健所の敷地が「えきまえテラス(通称：えきテラ)」という広場としてオープンし、一体的な利用が可能になりました(「えきまえテラス」は八王子市の施設のため、予約は(一財)八王子市まちづくり公社で受け付けています)。



▲日本遺産フェスティバルでの展示室内の賑わい

オープンとあわせて開催された日本遺産フェスティバルでは「えきまえテラス」と一体利用し、今後のイベント開催における新たな可能性が示されました。今後も、多くの方のご利用をお待ちしています！

【問合せ先】 東京たま未来メッセ(東京都立多摩産業交流センター)
〒192-0046 東京都八王子市明神町3丁目19-2 TEL 042-697-0802
ホームページ <https://www.tamaskc.metro.tokyo.lg.jp/index.html>



▲ホームページ



わたけ探偵!!こんなの調べてみました!

～ 東京都市町村ポッチャ大会 ～

◎不定期掲載

多摩・島しょ地域では、魅力的なイベントがたくさん開催されているんだ!
今回は **多摩地域で開催されるスポーツ大会** を紹介するよ♪

東京都市町村ポッチャ大会

ポッチャは、障害の有無や年齢、性別などにかかわらず、同一ルールの下で競技を楽しむことができるスポーツだよ。

「東京都市町村ポッチャ大会」は、参加市町村の推薦を受けたチームによって競われる大会で、東京2020パラリンピック競技大会の開催決定をきっかけに2019(令和元)年度からはじまったんだ。東京2020大会終了後も多摩地域全体におけるレガシーとして、障害者スポーツも含めたインクルーシブスポーツの普及・啓発を図っていくことを目的に、多摩地域の市町村が連携し、引き続き開催されているよ。

2022(令和4)年度は48チームの参加があって、競技としてもレクリエーションとしても、とても盛り上がった大会になったんだって!そして、今年度は昨年度より規模を広げた上で“人と自然に寄り添うまち”東久留米市で開催される予定になっているよ。ポッチャの楽しさで会場がひとつになるといいな♪

📍ポッチャとは?

ポッチャは、赤または青のボールを投げて、白のボール(正式名はジャックボール)にどれだけ近づけられるかを競うスポーツだよ。ターゲットスポーツと呼ばれていて、ダーツやアーチェリー、カーリングの仲間なんだって。ターゲットスポーツの特徴としては、対戦相手等との身体的な接触がほとんどないので、けがの危険性が極めて低い点にあるよ。

📍インクルーシブスポーツって?

障害の有無や年齢、性別、国籍等にかかわらず、誰もが楽しめるスポーツのことだよ☆



〔写真〕2022(令和4)年度大会の様子



実施場所 日時

- 会場** 東京ドームスポーツセンター東久留米 第一体育室 (東久留米市大門町 2-14-37)
[アクセス] 西武池袋線 東久留米駅(東口)から徒歩15分
※原則、公共交通機関でご来場ください。
- 日時** 2024(令和6)年1月27日(土) 13:00～17:30
- 主催** 東京都市町村ポッチャ大会実行委員会

問合せ先

◇大会全般に関すること
調布市 生活文化スポーツ部スポーツ振興課
電話: 042-481-7496
E-MAIL: sports@city.chofu.lg.jp

◇駐車場の利用を含む大会会場に関すること
東久留米市 教育委員会教育部生涯学習課
電話: 042-470-7784
E-MAIL: shogaigakushu@city.higashikurume.lg.jp





身近な場所で歴史を発見！今回はわたげのボクが『木造隨身倚像』と『旧多摩聖蹟記念館』を紹介するよ。



もくぞうずいしんいぞう 木造隨身倚像



小野神社にあるヒノキ材、寄木造りの像で、昭和50(1975)年に都の有形文化財に指定されたよ。昭和49(1974)年に発見された墨書銘によると、1体はいなばほつきょうあうえん因幡法橋応円作、挿首内や胸部内側に「元応元(1319)年十月二十九日奉行人権律師丞源」の銘があって、元応元(1319)年に奉納されたことがわかるんだ。その後、寛永5(1628)年にだいにそうけいほういん大式宗慶法印が修理した際に、もう1体も作られたとみられるよ。通常は非公開だけど、年に一度、11月の第2日曜日にだけ公開されるんだって。

旧多摩聖蹟記念館



明治天皇の行幸を記念して昭和5(1930)年に建築された昭和初期の近代洋風建築物だよ。四季豊かな都立桜ヶ丘公園内にあり、多摩市指定有形文化財、東京都「特に景観上重要な歴史的建造物等」、一般社団法人 DOCOMOMO Japan (ドコモモ・ジャパン)「日本におけるモダン・ムーブメントの建築 264 選」に選定されるなど、建築の観点からも高く評価されているんだ。幕末明治に活躍した人々の書画や、多摩市周辺の豊かな植物の写真を展示していて、企画展示も行っているよ。

【現地案内】

◆ 木造隨身倚像 (小野神社)

※原則非公開 (11月第2日曜日のみ公開)

〈アクセス〉

・京王線聖蹟桜ヶ丘駅から徒歩6分



◆ 旧多摩聖蹟記念館

- ・利用時間 10:00 ~ 16:00
- ・利用料金 無料
- ・休館日 原則毎週月・水曜日 (但し、国民の祝日にあたる場合は、その翌日)、年末年始 (12月29日~1月3日)、その他臨時休館日

〈アクセス〉

- ・京王線聖蹟桜ヶ丘駅から永山駅行き (聖蹟団地経由) バス「記念館前」下車 徒歩5分
- ・京王線永山駅から聖蹟桜ヶ丘駅行き (聖ヶ丘団地経由) バス「記念館前」下車 徒歩約5分



【情報・写真提供】多摩市経済観光課 042-338-6830

本紙についてのご意見・ご要望は、ホームページの問合せフォームからお寄せください。 問合せフォーム▼

